

いしかわ まちづくり View

No.34

目次

- 特集1 「いしかわエコハウス」4月下旬 OPEN 予定!
～家庭からエコを始めよう～ ……1
- 特集2 平成21年度街なみ・まちづくりシンポジウム
新総湯と ONSEN プロムナード～片山津温泉の再生に向けて～ ……4
- あのみち、このまち“まちづくりめぐり”
「輪風のまちづくり」が完成しました。(輪島市) ……5
まちづくり交付金事業「能美市辰口地区」 ……6
- まちづくりの動き
「まちづくり協定」が締結!(小松市栗津温泉) ……7
- センターだより ……8



特集 「いしかわエコハウス」4月下旬OPEN予定!

～ 家庭からエコを始めよう ～

1. はじめに

地球温暖化対策は世界的な課題であり、生活のあらゆる面において、温室効果ガスの排出抑制を進めていくことが必要となっています。

これまでのところ、家庭からの排出抑制がなかなか進んでいない状況にあることから、県においても、住宅の省エネ化の普及啓発に取り組んでいます。

こうした中、全国 20 か所の 21 世紀環境共生型住宅「エコハウス」のモデル地域に北陸で唯一選定され、家庭におけるハード・ソフト両面にわたる二酸化炭素排出抑制の工夫を取り入れたエコモデルハウスを産業振興ゾーンに建設することとなりました。

昨年 12 月には建設工事に取りかかっており、平成 22 年 4 月下旬にオープン予定です。

いしかわエコハウスでは、環境負荷の少ない住宅の建設や設備、暮らし方の工夫などに関する情報を提供すると同時に、最新の省エネ技術等を体験していただくほか、県内の工務店や設備事業者等に対する知識や技術の普及のために活用することとしています。

さらに、環境団体の活動拠点や環境教育の場としても活用し、多様な環境人材の育成とネットワークづくりを進めます。



2. いしかわエコハウスの基本方針

【石川の四季との共生】

石川県は、夏は蒸し暑く日射量も多いですが、冬は雨雪や曇り空が続く、年間を通して湿度が高い湿潤な気候を持つ地域です。

いしかわエコハウスでは、季節に応じた自然エネルギーの取込みと遮蔽を切替えるなど、住宅のエネルギー負荷の抑制と、暮らしの快適性確保との両立を設計の基本方針としています。

【自然エネルギーの優先活用】

自然エネルギーを多く取り入れ、優先的に利用する住宅を目指します。日射遮蔽や通風の確保、太陽光や熱の取込み、地中熱の利用等により、住宅のエネルギー負荷を抑制し、さらに太陽光発電等の設置によりエコなエネルギーを創出します。

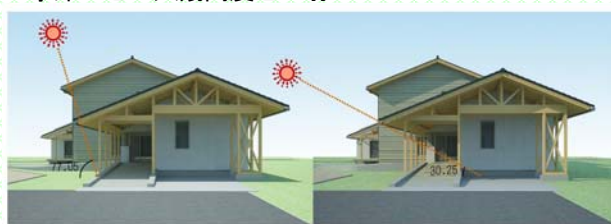
【地域に根ざした暮らし】

冬の生活を豊かにするための知恵として、深い庇や縁側などの屋根付きの半屋外空間や、外壁ルーバー等、建物を守り快適に暮らすためのしつらえを取り入れています。

これらは、夏においても、強い日差しを遮蔽し、断熱や建物の劣化を防ぐ役割を果たします。

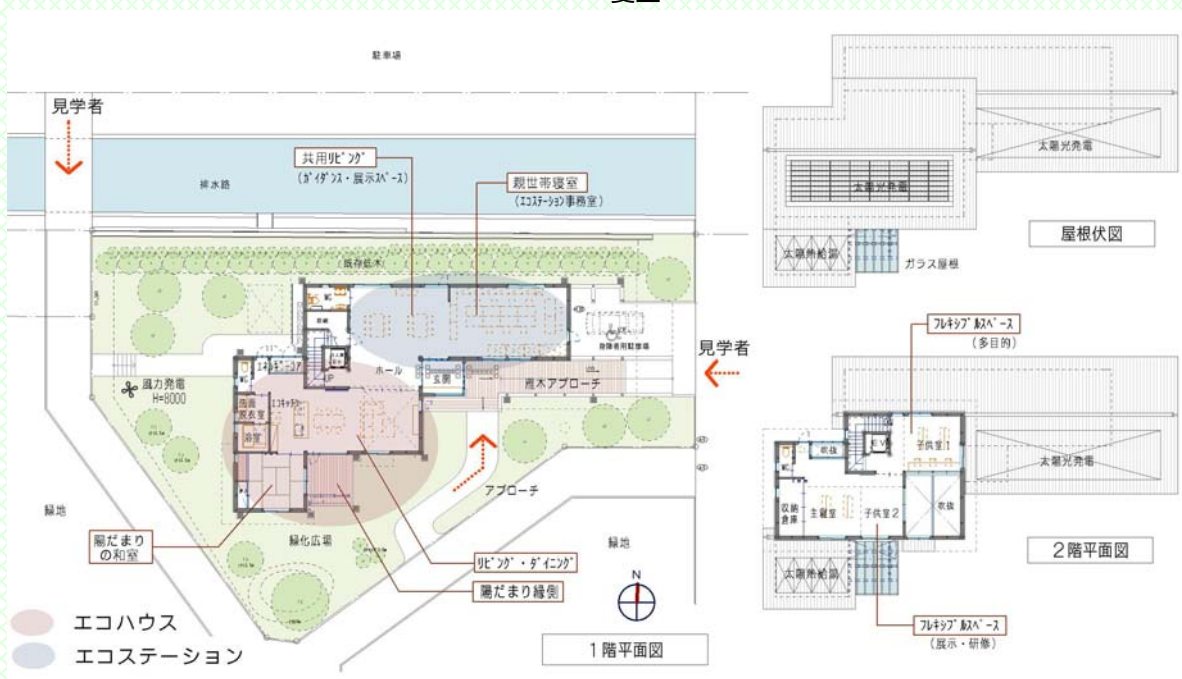
また、県産材や、県内企業が製造する製品を採用し、地産地消につとめます。

■季節ごとの太陽高度と日射



冬至

夏至



■建物概要■

- ・所在地 金沢市鞍月2丁目地内（産業振興ゾーン内）
- ・延床面積 307.61㎡
- ・構造階数 木造（軸組工法）、2階建て
- ・主要施設（2世帯住宅（子育て世帯とその親世帯）を想定）
 - エコハウスゾーン（西側2階建て部分）……子育て世帯
LDK、陽だまりの和室、フレキシブルスペース、エネルギーコア
 - エコステーションゾーン（東側平屋部分）……親世帯
管理運営のため県民エコステーションが常駐
- ・設計監理：株式会社金沢計画研究所、 施工：ほそ川建設株式会社

3. その他の住宅省エネ化についてのとりくみ

(1) エコリビング研究会

有識者や県で組織する「エコリビング研究会」では、ソフト（行動や住まい方等）、ハード（躯体や設備の省エネ化等）の両面からの取り組みや、日本の伝統的な省エネ生活や技術なども掘り起こし、住宅の省エネについて広く検討しています。

エコリビング研究会では、住宅の断熱化や高効率設備機器の取り入れ、暮らしの工夫などのアイデアそれぞれについて、二酸化炭素の削減効果や、節約効果（エコ貯金額）などを示したマニュアルとして、「エコリビングマニュアル」を作成しています。

(2) エコリビング支援モデル事業（補助制度）

県では、省エネ住宅の建設や省エネ改修、省エネ設備機器を対象とした助成を行っています。

交付対象者は、①県内に自ら所有する戸建住宅を新築、購入、または改修する方で、②いしかわ家庭版環境ISOに取りくんでいる方。です。

補助金額は、省エネ住宅の建築、購入、改修に要した費用の5%相当額で、補助金の上限は25万円です。（詳細は下記参照）

■エコリビング支援モデル事業

【補助対象者】次の(1)、(2)のいずれにも該当する方。

- (1) 自ら居住するため戸建住宅を新築、購入、改修する方
- (2) いしかわ家庭版環境ISOに取り組み、「エコファミリー」として登録されている方（登録される見込みの方を含む。）

【対象施設、整備例】下記の項目から3つ以上

- ・断熱施工
- ・ペアガラス窓及びサッシ
- ・高効率給湯機（エコキュート等）
- ・住宅用太陽光発電システム
- ・太陽熱温水器
- ・窓ガラス用断熱フィルム
- ・遮光カーテン
- ・LED照明
- ・節水・省エネ型トイレ
- ・人感センサーライト

【補助金額】

上記に要する費用の合計額の5%に相当する額（上限25万円）

詳細は県地球温暖化対策室まで問合せ

TEL:076-225-1462 またはHP参照

http://www.pref.ishikawa.jp/kankyo/pp/ecoliving_jyosei/index.html

(3) エコ住宅アドバイザー制度

エコ住宅の建設及び省エネ改修の推進のため、それらの知識を有する方を「石川県エコ住宅アドバイザー」として認定します。

アドバイザーは、エコ住宅の建設またはエコ改修にかかる相談、設計、施工等を行い、県は、アドバイザー名簿を、窓口やホームページなどで広く公開します。

(4) ドイツのエコセンターとの交流

環境先進国であるドイツの省エネ建築技術や手法を学び、その活用を検討するため、ドイツのハム市にあるエコセンターと交流を行うこととなりました。

エコセンターは、ドイツ有数の省エネ建築の研究・コンサル機関で、主に、省エネ改修のコンサルティング業務や、省エネ建築の技術者育成を行っています。

平成20年8月、このエコセンターと、石川県建築住宅総合センターの間に、石川県が仲介役となり、協力協定を結び連携していくこととなりました。

■ドイツ エコセンターとの交流

環境先進国ドイツの技術・手法を学び活用する



この協定に基づき、エコセンターの職員を招き、ドイツの省エネ建築や法制度、性能評価手法などについての講習会を開催したほか、昨年は、県内の建築技術者18名の視察団がドイツを訪問し研修を行いました。



■ドイツの省エネ性能評価（エネルギーパス）講習会

新総湯とONSENプロムナード ～片山津温泉の再生にむけて～

片山津温泉は、観光客数がピーク時の5分の1にまで減少し、温泉観光地として危機的状态の中、加賀市において新総湯（共同浴場）と親水広場の整備が計画され、県の護岸堤整備に伴うプロムナード（散策路）構想が進められています。

新しい温泉街の形成を目指し、生まれ変わるための第一歩を踏み出した今、本当の温泉地再生のために、地域住民が何をすべきか、何が出来るのか、温泉まちづくり考えるため、平成21年9月12日(土)に片山津地区会館テリーナホールにてシンポジウムを開催いたしました。

■湖畔・湖上 散策体験

屋形船やバスにて湖岸沿いの各ポイントを見学し、柴山潟の生態系や湖畔散策のあり方について学びました。(参加者53名)

■ パネルディスカッション

「新総湯とONSENプロムナード」

世界的な建築家であり、新総湯および親水広場の設計をお願いしている「谷口吉生先生」、ランドスケープの専門家としてご活躍されている奈良女子大学教授の「宮城俊作先生」をお招きし、新総湯や周辺整備計画の概要や、温泉街と湖畔を繋ぐONSENプロムナード構想についてディスカッションを行いました。(参加者200名)



散策体験



シンポジウム会場の様子



谷口先生からは、新しい総湯のコンセプトのご説明をいただき、親水広場の活用方法についてのご意見を伺いました。「淵の湯」「森の湯」の2つの浴室を持つ建物からは、柴山湯越しに白山連峰を一望できることは勿論のこと、昔ながらの片山津の森の風景を楽しむことができます。



宮城先生からは、湖畔の活用方法と温泉街との関わり方について、先進地の事例を紹介いただきながらご意見を伺い、温泉地の賑わい創出のために自分たちで何ができるのかをあらためて学びました。

片山津地区
まちづくり推進協議会
会長 安宅 俊和
Tel 0761-74-035

– 5 –

まちづくり交付金事業「能美市辰口地区」

■ 辰口地区の現況

辰口地区は、能美市の中心市街地の一つとして位置づけられ、大規模な住宅地開発や工場立地が進むなかにおいても、里山が残されるなど“まちの原風景”を留めています。しかし、恵まれた地域資源が有効に活かされておらず、地域活力の低下が進んでいました。

このような状況の下、辰口地区では、歴史・文化・自然資源の有効活用と、辰口温泉街のにぎわい創出を図るため「まちづくり交付金」を活用した施設整備を行いました。



— 能美市温泉交流館“里山の湯” —

■ 能美市温泉交流館

能美市温泉交流館は、地域の新たな交流の場として、昨年7月11日にオープンしました。当施設は、公衆浴場の他、玄関ホールにあるギャラリーにおいて、児童や文化団体などの作品も展示しています。

オープン以来、毎日、約300人の利用があり、お年寄りから子供まで能美市内外から多くの人々が訪れ、憩いと語らいのスポットになっています。



— 市道辰口温泉線 カラー舗装・石張舗装・無電柱化イメージ —



— 足湯イメージ —

■ 温泉街整備

現在、温泉街のメインストリートである市道辰口温泉線のカラー舗装や石張舗装と合わせて無電柱化を行い、温泉街と交流館の間には足湯を整備しています。また、地区内にはポケットパークを数ヶ所配置するなど回遊性の向上に努めており、これらの整備は、今年3月に事業が完了します。

今後は、能美市温泉交流館を中心とした辰口温泉街の新たな賑わい創出が期待されます。

【問合わせ先】 石川県土木部都市計画課区画整理 G

TEL : 076-225-1799

E-mail : gairo@pref.ishikawa.lg.jp

まちづくりの動き

小松市栗津温泉街区まちなみ協議会

「まちづくり協定」が締結！

■ 古き良き「和」の温泉街を目指して

小松市栗津温泉に、栗津らしさを醸し出す建物修景のルールや地域が取り組む賑わいづくりについて取りまとめた「まちづくり協定」が締結されました。栗津温泉では、「開湯1300年の歴史が息づく魅力ある湯の里づくり」を目標としたまちづくりに取り組んでおり、平成21年12月、これまで地域で取り組んできた「まちづくり協定」が締結され、実を結びました。

栗津温泉では、新総湯が平成20年8月にオープン、また総湯前都市緑地が平成21年6月に完成しました。この総湯を核にして、おっしょべ子ども太鼓やジャズコンサートなどのイベントを行っています。

今後はこのまちづくり協定に基づき、賑わいづくりの話し合いや、建物の建替え・修景が進んでいくことになります。今後も栗津温泉の賑わいづくりにご期待ください。



栗津温泉・総湯前都市緑地



喜多協議会会長から和田小松市長に認定申請書提出

まちづくりの目標： **開湯千三百年の歴史が息づく魅力ある湯の里づくり**
キャッチフレーズ： **～山かげの御殿湯 里山・里川のふるさと～**

古き良き「和」の温泉街空間をつくる『まちなみの作法』



栗津らしさを醸し出す『おもてなしの作法』

『あかり』 宵の月あかりの漂い

『くつろぎ』 縁を結ぶ出逢い

『みどり』 里山の庭のような



まちづくり協定に基づく建物イメージ

小松市都市計画課

※平成22年4月から

「まちデザイン課」に変更になります。

センターだより

まちづくりリーダー研修会開催！

□ 各地のまちづくりリーダーが集結！

今年度において実施した、子供たちが地域について学習する活動について活動団体による報告や、県内各地でご活躍されている方々と意見交換や情報交換を行う「まちづくりリーダー研修会」が開催されました。

□ 開催の概要

- 開催日：平成22年2月21日（日）
- 場 所：石川県地場産業振興センター
- 内 容：
 - ・活動団体による活動報告（7団体）
 - ・やまなしキッズカンパニー特別報告
 - ・意見交換

□ 楽しく学ぶ子供たちの様子を報告！

当センターの「いしかわこどもの未来創造まちづくり事業」により実施した7団体の活動報告が行われました。



子供達の地域学習の様子

□ 子供もまちも企業も元気に！

～やまなしキッズカンパニー～

山梨県甲府市から、お越しいただいた(株)Rolling-Cの小沢様から、子供たちを中心にまちが元気になる取り組み「やまなしキッズカンパニー」について特別にご紹介いただきました。

山梨県からお越しいただいた

Rolling-C 小沢様

□ まちづくりのヒケツは？

意見交換では、皆さんの経験をもとに、たくさんのヒケツが紹介され、熱心な意見交換になりました。その一部をご紹介します。

●観光ガイドは子供たちにさせる。子供のころに自分のまちをほめられる体験がいい。

●観光ガイドはまちづくりに苦労した人に頼む。携わった方の思いに触れる。

●学生と連携する。特に大学生と連携すると継続的に研究が行われ、地域に根付いた活動になる。

●企業がまちづくりに参加し、民間と公共でそれぞれの強みを活かした取り組みがよかった。

●お金がある人はお金を出し、お金がない人は汗をかけばよい。そうしていくうちに味方が増える。

●参加した人が喜ぶことを行うことが大切。

●経済的や広告的な要素を加えれば面白くなる。まちづくりは経済、子供たちは経済を学ぶべき。

●子供が18歳の段階で自分のまちにどんな思いを持っているか、地元に戻ってくるきっかけになる。

●既成のものを使わずに出来るだけ地元のものを使ってPRする。

●子供たちが学習したことを中学生や高校生に教える。そうするとまちづくりの循環が出来る。



研修会の様子

編集後記

「エコハウス」完成したら行ってみたいですね。最新の省エネ技術だそうですからきっと住み心地も快適なんだろうと思います。まちづくりにもエコを取り入れて楽しく地球温暖化防止に貢献しましょう。そんな私も自転車通勤で貢献です。(汗)

今後とも当センターは皆様のまちづくりにお役にたてるように

取り組んで参りますので、ご活用・ご協力のほどお願いいたします（岩端）

いわはな

編集協力：石川県都市計画課・建築住宅課
小松市・加賀市

発行：(財)いしかわまちづくり技術センター

TEL 076-232-2255 FAX 076-232-2532

HP <http://www.machisen.jp/>

発行日：平成22年3月